

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

に考える必要があるらしい。阿部・小宮・安倍という世代の人々の献呈したであろう本が全く見えない。紅葉・露伴・透谷・鴉外から自然主義作家にいたるまで、文壇の大家の作は蔵書中に一切何もないのである。政治評論や経済議論の類も見当らない。このあたりは、傍線や書入れの問題と違って、漱石文庫そのものの構成として別箇に検討すべき問題なのであろう。(文学部助教授・本館調査研究室長)

	冊数	点数	傍線	書入れ	傍線 書入れ	記入計	記入/点数
	2,862冊	1,558点	127点	45点	239点	411点	26.4%
I 洋書	(1,647)	(1,128)	(126)	(32)	(234)	(392)	34.8
1 文学	1,139	809	97	24	178	299	37.0
① 文学一般	50	42	8	2	10	20	48.0
② 英文学	879	598	55	20	134	209	35.0
③ 他国文学	210	169	34	12	34	80	47.3
2 歴史	33	24	3	0	2	55	21.0
3 哲学	106	86	11	2	31	44	51.1
4 科学	88	87	1	0	10	11	12.6
5 芸術	137	38	5	1	6	12	32.0
6 語学	103	85	7	2	5	14	16.5
7 雑書	51	48	2	3	0	5	10.4
8 逐次刊行物	50	11	0	0	2	2	18.1
II 和漢書	(1,215)	(430)	(1)	(13)	(5)	(19)	4.4
1 俳句・俳文	146	59	1	1	0	2	3.4
2 漢詩・漢文	203	63	0	1	2	3	4.7
3 語録・道話	90	48	0	2	2	2	4.2
4 画帳・拓本	224	123	0	2	0	2	1.6
5 和歌・国文	100	18	0	3	0	3	16.6
6 小説・随筆	80	23	0	0	0	2	8.7
7 字書類	139	22	0	1	0	1	4.5
8 歴史・地理	68	47	0	1	0	1	2.1
9 雑書	165	27	0	2	1	3	11.1
III 附属一身边自筆資料	以下	省略					

第50次国立七大学図書館協議会報告

本年度は名古屋大学が当番校となり、昭和51年9月21日—22日、鳥羽保養所いそぶえ荘を会場にして、文部省から情報図書館課前田課長補佐、沙藤専門員の出席を得て開催された。

第1日目は、部課長会議が開かれ、七大学附属図書館が当面の課題としている次の協議題について情報を交換し、意見、討議がなされた。

1. 高額な経費を要する逐次刊行物等の購入調査について
2. 学術雑誌総合目録について
3. 昇格(5等級)基準について
4. 定員外職員の待遇改善について
5. 図書系の係に勤務する一般職員の5等級昇格について
6. 図書館職員の新規採用について
7. 海外から寄贈をうけている学位論文について
8. 週休二日制と図書館業務体制について
9. 週休二日制の試行実施について
10. 洋書輸入協会の公正取引委員会勧告受諾に

伴う外国雑誌・洋書購入について

11. 図書館資料の廃棄について

第2日目は、各大学の館長が出席し、次の協議題及び前日の部課長会議で取り上げられた問題を含めて協議がもたれた。

1. 新しい学術情報要求と中央館の対応について、
研究者から新しい学術情報の要求——知識の Data Center としての Data 処理, Documentation 活動要求など——があるが、附属図書館はこの要求に対して、従来の図書館活動以外に、これにどう対応すべきであるかという今後の方向について討議した。
2. 地域社会における大学図書館の利用サービスについて、
附属図書館は、現在でも他大学、研究機関等以外に一般社会に対しても利用サービスをしているが、公共図書館と大学図書館の機能・サービスの範囲、在野研究者に対する公共図書館の体質改善など問題があるにしても学術研究図書館としての大学図書館は一般地域社会に対してその機能上どこに焦点を合わせてサービスすべきであるかについて協議した。

3. 第四次定員削減について、

第四次定員削減は、8月24日の閣議で決定をみているが、図書館は学内研究者、学生など利用対象者の増、学術情報資料の増大と時間外開館、参考業務、相互協力等業務の多様化と複雑化によって図書館に要求されるサービス機能が増大しつつある。特に図書館職員は大学の研究・教育の支援職員としてこの削減計画から除外あるいは削減率を緩和するよう関係省庁へ要望することとした。

4. 特別図書購入費の継続配当について、

「特別図書購入費」は、大学院をおく人文・社会系学部を対象としたものであるが、これの継続配当が中止されれば、学部積算校費で、大学院研究科を整備（図書）することが困難であるので、これの継続配当もしくは標準予算化を強く要望すると同時に「学生用図書購入費」の増額、「外国雑誌購入費」の別枠新設を含めて要求することとした。

5. 外国雑誌収集特別予算措置について、

外国雑誌特別予算の配分条件には、雑誌の合理的集中管理、全国的共同利用サービスなどの課題があるが雑誌収集の経済効率、欠情報と防止するという意味から、この特別予算措置が重要であることを再確認して申し入れ書を提出することにした。

6. 相互協力要員の確保について、

他大学研究機関等へのサービス増大は、七大学がその拠点となっており、著作権とコピーサービス、図書館の管理下における人的、物的問題、相互協力のあり方—その内容、範囲、活動—などについても再検討する必要があるので、この要員確保（相互協力要員増員要求）の問題の取り扱い方については本協議会の宿題とすることにした。

なお、本学からは、和田館長、猪狩総務課長、平整理課長が出席した。

昭和51年10月1日、本協議会議長から関係省庁あてに次の要望書が提出された。

昭和51年10月1日

文 部 大 臣 殿
行政管理局長官

第50次国立大学附属図書館協議会議長
名古屋大学附属図書館長
横 越 英 一

図書館職員の定員削減対象からの除外ないし削減率の緩和について

国立大学附属図書館の職員の確保に関する国立大学附属図書館協議会としての要望事項は、本年8月作成の上、関係方面に提出致しました別添「国立大学附属図書館の整備充実に関する要望書」において述べられているとおりであります。現在第四次定員削減が問題とされている状況下においては、とくにこのことを強く要望せざるをえません。

国立大学におきましては、研究者数、学生数および図書館の保有する資料の増加、ならびに参考業務、相互協力等、業務の多様化と複雑化により、図書館に要求されるサービス機能が急激に増加しております。ところが、図書館の定員は、従来これらの研究者数、学生数および図書館資料の増加、ならびに業務の多様化と複雑化に比例して増加するどころか、かえって減少する傾向さえ見受けられるのが現状であります。図書館職員が第三次定員削減に引きつづき、第四次定員削減を受けることになれば、国立大学附属図書館は前記のような機能を果たし得ない状態に陥り、大学本来の使命たる研究・教育の発展を阻害するにいたることは明白であると言わなければなりません。

去る9月22日名古屋大学附属図書館を当番館として開催されました国立七大学附属図書館協議会（北海道・東北・東京・名古屋・京都・大阪・九州の各大学附属図書館長と事務部・課長をもって構成）は、憂慮すべきこの件につき協議いたしました結果、第四次定員削減にあたり、その実施の過程において図書館職員を除外すること、少なくともその削減率を緩和することを強く要望することに決定いたしました。

つきましては、以上の事情を御賢察の上、よろしく御処置くださいますよう切望いたす次第であります。

以 上

昭和51年10月1日

文 部 大 臣 殿
大 蔵 大 臣 殿

第50次国立七大学附属図書館協議会議長
名古屋大学附属図書館長
横 越 英 一

昭和52年度予算案編成に当たりとくに要望する重点事項について

国立大学附属図書館の予算に関する国立大学附属図書館協議会としての要望事項は、本年8月作成の上、関係方面に提出致しました別添「国立大学附属図書館の整備充実に関する要望書」において述べられているとおりであります。下記事項はさし当り昭和52年度予算案の編成に当たり、とくに実現を要する緊急かつ重要な事項であります。事情御賢察の上、その実現方につきましては格別の御配慮をいただきたく、お願い申し上げます。

以上、去る9月22日名古屋大学附属図書館を当番館として開催されました国立七大学附属図書館協

議会（北海道・東北・東京・名古屋・京都・大阪・九州の各大学附属図書館長と事務部・課長をもって構成）における申し合せに基づき、要請致す次第であります。

記

1. 「学生用図書購入費」をさらに増額すること。
2. 「特別図書購入費」（大学院を置く人文・社会系学部を対象とするもの）を継続・増額すること。
3. 「外国雑誌購入費」の別わくを新設すること。

以上

JIS 1975年版（日本工業規格）について

かねてより学内の多くの利用者からその購入が待たれていた標記資料全141冊が、このたび本館レファレンス・コーナーに備え付けられた。

JISは鉱工業品のうち、土木建築、機械、電気、自動車、鉄道、船舶、鉄鋼、非鉄金属、化学、繊維、鉱山、パルプおよび紙、窯業、日用品、医療・安全用具、航空、一般（基本）および雑（包装、溶接、原子力を含む）の17品目についての生産、流通、消費面での単純化および統一の基準として制定された、工業標準法にもとづく我国の国家規格の一つである。

JISは科学技術の進歩にともない、制定後3

年を経過するごとに再検討され、廃止されるもの、改正されるもの、あるいはその必要のないものは確認という形で検討整理され、その時代その時代に常に即応した内容を持つよう配慮されている。

従って、本資料は加除式の形態をとっており、内容の変更等については継続的に差しかえられることになっている。

なお、JISの利用法、及び記載内容の説明等については、日本規格協会から毎年刊行されている「JIS総目録」（1975年版は購入済）に詳しい。

昭和51年度文部省大学図書館職員長期研修会に参加して

整理課 和漢書目録掛長 塚原清二

今年の長期研修は8月9日から9月3日にわたり、主に図書館短期大学を中心会場として、全国36大学、参加者37名を対象として開催された。実習の講義内容により、人文・医学生物・理工系の3分野に分かれ、各グループ、会場を異にして講義がなされた。小生は理工系に属し、終始図書館短大で受講し、他の分野については講義要綱のみを配付された。

今回の研修会の特徴は、地方大学の参加が多く特に高専、並に私大の参加のあった点で、企画された本省の努力に感謝したい。

研修の概略を述べると、全体を四週に区分し、第一週は大学図書館の管理運営に関するもので、管理上の職員の心構えに始まり、大学図書館の活動に対する望ましい姿、及びその活動に対する評価の方法、並びに各界の評価の紹介があった。

第二週は、図書館業務のシステム分析法、システム化の実技について講義があり、電算機導入の必要性と、その過程で生ずるいろいろな疑問点が論議された。この過程で初めて、電算機の使用が入り、COM使用の初歩的な訓練があった。

第三週は、中心の情報サービスに関することでCOMを使用する手法、実技とこれ等に関する必要な基礎的ツールの解説、整理法の講義であった。

第四週は、見学及び共同討議で、オリエンテーションの時に配付された「大学図書館改善協議会

50年度審議のまとめ」について、全受講生を3グループに分けて、それぞれの選んだテーマの結果を報告した。

全体的に研修を振り返ってみると、全てが如何にして能率よく稼働率を上げる電算機を導入して利用するかの一点に絞られると思う。参加者37名の中には、もちろんCOMを導入している館員も多く、非常に強い関心をもって受講したであろう。このような点も考えれば今回の研修テーマは時宜を得たものと言える。だが後半の日程で実際にCOMを運用している現場を見学して改めて感じさせられたことは、現在の国立大学の会計規則の枠内では十分にCOM機器の能力を生かすだけの端末サポート機器が設備可能だろうかということである。端末機器の不足は実務者のいらだちを駆り立てるのみであり、受講生の中にも機械導入についての内紛を発表した職員もいた。前述の各大学の現状を併せ考えて見れば、講師の意図する理想像とは、はるかにかけはなれた初歩的な運用しか実行されていないのではないか。試行錯誤は必然的なこととして認めても、全国から集められた受講生を対象とする講義としては、他にもっと適したテーマもあるのではないかという感じがした。

講義においては図書館業務のシステム化について、多くの時間が充てられてはいたが、次にそれについて意見を述べたい。図書館業務の機械化について先に立つシステム化の講話があったが、受

講生の中で最も興味を呼んだのはシステム設計論であり、その主たる関心が各自の持つ業務の消化に役立てる日程表作成にあったことは電算化以前の問題として印象的であった。

今回の研修の主目的であるCOMに関する講義を紹介したい。研修会の主題がCOMにしては意外と実習の時間が少ないと思った。実習以前の講義としては完全な基礎論であるシステム化のみであり、機器に対する解説はなかった。しかし今回の沖電気KKの会場は、或る程度満足できるものであった。すでにCOMを利用している職員は、基礎的学習を終えている様であるが、おおかたの参加者は困惑の態度を隠すべくもなかった。この点、研修生募集の時点で、講義内容の概略説明がなされていれば大いに助けられたと思う。電算機の基本である2進法、16進法すら理解が出来ない我々に対しての講義内容からみると、今度の講義要項については色々不十分な点があり、今後更に検討されることを希望したい。なぜなら今回の様な長期にわたる研修期間中こそ、基礎は事前に各自修得しておいてから、研修に参加し、実務面での学習をできるだけ充実させてほしいと感ぜられたからである。

情報活動サービスの講義については、各々のグループに分かれての受講で、私は理工系に出席したのでその模様を述べる。

この講話は研修期間中の最大のロングランで、講師は国立国会図書館の竹内氏であった。氏の講話は各種情報源の紹介とその内容、利用法、整理法が理路整然と語られ、実に意義あるものであったが、この内容にも考えさせられるものがあった。というのは、この種の講義は、取上げた資料を手元に置きながらなされるのが本来の形であると考えられるからであり、受講生のすべてがこれらの資料を入手できるわけではないからである。この点のご再考をお願いしたいと思われた。

最後に見学と実習について述べる。COMの実習は、図書館短大、沖電気KKで開催された。短大に於ては、MARC・TAPEの情報検索で、MARCの実情を、微に入り細にわたった解説がなされ、現在の図書館界の情報活動についての最新の情報が知らされた。沖電気KKでの実習で、私は初めてCOMに触れた。ここでの教習には雰囲気として安らかさがあり、楽しんで受講した2日間であった。しかし、私は逆に機械の非情に直面して何んとも言えぬ感情を覚えた。こんな点がCOM導入に踏み切った図書館の職員の発する苦情ではないかと思ひ、機械と人間の融和の困難さを考えさせられた。

終りに、研修は理想の追求も結構であるが、更に云うなれば実験的な体験を重視する方向で、今後の研修テーマを選定されるよう希望したい。

「徳川時代 出版者 集覧」刊行さる

本館の矢島玄亮氏の大著「徳川時代 出版者 集覧」が、昭和50年度文部省科学研究費補助金を得て、この4月に刊行された。本文269頁、著者名索引58頁、書名索引99頁 B5判 頒価7,100円 発行は同書刊行会、印刷は笹気出版印刷株式会社、発売は萬葉堂書店（仙台市五橋2丁目11-21）である。

矢島氏は参考資料を中心に多くの編著書を世に出されてきたことで知られているが、わけでも本書は斯界待望の書であることから、改めて氏の御苦労に対して感謝と心からの祝意を表したいと思う。

因みに、本書は昭和43年に東北大学附属図書館参考資料第73号として油印に付されたものの、限定発行部数のため到底江湖の需めに応じ得ず、多くの研究者の間からその本格的な刊行を求める声が氏のもとに届けられていたものである。その意味で、漸やく公費の助成を得て、旧稿を増訂され、刊行を果たされた氏の安堵感もひとしおのものがあるかと察せられる。

この種の著作には、「慶長以来書買集覧」（井上和雄著）が挙げられるが、少しく解説を附するものの抄録的な同書に比するに、本書はそれを補して餘りある資料集成の体を為しており、個々の出版物の著者名をも採録していることとあいまって、江戸時代の研究に不可欠の参考図書として各方面を裨益することと思われる。又、所収出版者3千2百余及び出版物1万2千余の本書は、既に氏のもとで続巻が準備されており、江戸時代の出版界の概観も次第に可能の域に近づけられようとしている。

なお、本書の出版記念祝賀会が、9月10日（金）午後五時半から市内長陵会館において50人余の参加者を得て行なわれ、著者を囲んで楽しいひとときが過ごされたことを附記する次第である。

英国二次資料展

9月7日から9月10日までの4日間、本館大視聴覚室を使用して、標記の展示会が催された。英国大使館情報部の御好意による英国における抄録・索引等の二次資料サンプル約200タイトルが、文部省学術国際局情報図書館課の依頼で主な国立8大学間の回覧に供せられたものである。期間中来館者の大部分は学生であったが、学内外あわせて約550名ほどを数えた。

展覧会等への貴重図書の 出品協力について

さきに紹介した展覧会への出品条件について、出品協力要項が制定されたので全文を紹介する。
制定趣旨

大学図書館所蔵の貴重図書などの図書、資料は優れた文化財ではあるが、主として大学を中心とした学問研究の資料として保存、提供するものであり、展覧会等への出品協力も国民への公開を主な目的とする博物館等への所蔵品とは異なり一定の基準による必要があることから、本要項を制定する。

貴重図書の展覧会への出品協力要項

第1条 本要項は東北大学附属図書館所蔵の貴重図書等の展覧会への出品協力に関して、文化財保護法及び物品の無償貸付及び譲与に関する法律に基づき公開、貸付を行うために必要な基準等を定めるものである。

第2条 貴重図書等とは、本館所蔵の別置本及びこれに準ずる図書、資料とする。

第3条 本館が出品協力するにあたっては適切な展覧会の基準(第4条)を満たし、かつ出品協力への重大な必要性(第5条)があることを原則とし図書館長はこれらの諸条件及び図書、資料の保存、利用状況を総合的に判断して出品協力を決定する。

第4条 出品することが適切な展覧会の基準は次の各項を満たすものとする。

- ① 学術文化の振興に寄与すること。
- ② 主催者及び会場が信頼のおける公共的機関又はこれに準ずるものであること。
- ③ 展示中の管理、搬送等の条件、安全性及び保証への配慮が的確であること。
- ④ 引用、複製等については本館の指示によること。
- ⑤ 会期等が学内の利用を妨げないこと。

第5条 出品協力にあたっては、次の各項の何れかに該当するものとする。

- ① 当該資料の収集、発掘、研究、紹介に貢献した学内研究者からの要請があるとき。
- ② 当該専門分野の学内部局、学会などの研究組織からの要請があるとき。
- ③ 著作者等からの要請があるとき。
- ④ 東北大学附属図書館として必要であると認めるとき。

この要項は、昭和51年10月1日から適用する。

図書館等職員著作権実務講習会

閲覧課書庫掛長 相馬 正基

昭和51年度文化庁主催による標記の講習会が7月27日から29日の3日間、東京大学経済学部別館第1教室を会場として行なわれた。

講師は文化庁文化部著作権課長の小山忠男氏(もと本学庶務課長)以下の著作権課のスタッフのメンバーで内容は密度が濃いものであった。受講者は国公立私立図書館職員約250名で東北大学からは私のほかに理学部化学科図書室の藤沢さ

ん、数学科図書室の日野さんが参加した。

講習会の目的は著作権施行令(昭和45年政令第335号)第1条第1項に掲げる図書館その他の施設の職員に対し図書館等の実務に必要な著作権にかんする知識を修得させることにある。現在は図書館の運用活動面として文献複写が重要な部門を占めており図書館人の知識としても著作権法の大要と精神を知る必要性があろう。

僅か3日間の日程としては、その内容範囲が広く、当期間中は連日30余度の暑さでふだんならばやりし易いところですが、講師、受講生ともに熱心で活気に溢れていた。

初日は文化部長のあいさつ後に著作権法について小山課長より専門的見地よりの概観の説明があり、その後岡村課長補佐、黒沢係長の著作権法概論(著作権制度の理念及び骨格。著作者の権利。実演家、レコード製作者、放送事業者の権利。著作物、実演等の利用。救済制度。登録制度。著作権に関する仲介業務制度)のアウトラインを息もつかずにやり、午後は大山専門委員、鬼島法規係長の制度史。条約論の講義及び図書館実務と著作権についての事例について解釈の仕方があった。最終日は質疑応答の時間があり、午後は図書館実務と著作権についての演習問題(15問)のテストがあった。答案を提出後に1問について3~4名ずつ指名されてその解答と理由を述べ、最後に講師が正解答とその法的根拠について説明された。問題によっては3人とも異なる解答と説明の場面があって面白く勉強することが出来た。

受講をして感じたことは、著作権法そのものにも若干の問題点がないわけではないが、一般民衆の理解と意識が足りない点を痛感させられた。

なお著作権について訊ねたい問題等が生じた際は文化庁文化部著作権課に問合せして下さい。(電話でも可とのことでした。)

理工系図書委員会

去る9月14日(火)午後、附属図書館会議室において、理、医、歯、薬、工、農各学部、教養部および各研究所の図書委員会が開催され、「外国雑誌の共同購入等」について協議がおこなわれた。

これは、最近、外国雑誌の購入価格が高騰を続け、各部局の図書購入費の予算を圧迫している中で、継続雑誌の「中止」が特に自然科学系部局にみられる傾向にあるので、全学的に協議する必要が生じ、経費の節約、欠情報の防止という点から、高額外国雑誌の共同購入の体制について協議がもたれたものである。

図書館がこの問題点として

- ① 共同購入雑誌の選定
- ② 購入費拠出(負担)の方法
- ③ 管理、運用サービスする部局の選定
- ④ 学内相互利用の体制
- ⑤ 参考調査要員の配置

などについて問題を提起し、種々論議された。中央図書館が全学的な立場に立って情報提供やサービスの体制を確立してもらいたいという要望もあったが、これらは一概に早期に解決できる問題でもないもので、当面ケースバイケースで対処していくことになった。

昭和五十年年度四学部部間共通費購入実績

文、教、法、経四学部で拠出している部間共通の図書購入費によって、下記の図書館資料を購入し、本館のレファレンスコーナーに備え付けてありますからご利用下さい。

図	書	名	冊数
	American book publishing record; annual cumulative. 1974.		1
	Bibliografia nazionale italiana; catalogo alfabetico annuale. Vol. 14.		1
	Catalogue général des livres imprimés de la bibliothèque nationale. Auteurs. Tom. 217, 219-220.		7
	Directory of American philosophers. 7. ed. 1974-75.		1
	Directory of published proceedings. Ser. S. E. M. T. Vol. 6-9.		4
	Directory of published proceedings. Ser. S. E. M. T. Cumulative. Vol. 5-8.		4
	Directory of published proceedings. Ser. S. S. H. 4 year cumulated (1968/71)		1
	Encyclopedia of education. 10.		1
	The Europa year book; a world survey.		2
	Bibliothèque nationale. Catalogue général des livres imprimés. 1960-1969. Ser. I. Tom. 8-13.		6
	Great Soviet encyclopedia. Vol. 6-8.		3
	Holzman, Michael. Deutsches Anonymen-Lexikon. Bd. 1-7.		7
	Hudson, Kenneth, ed. The dictionary of museums.		1
	IBN; Index bio-bibliographicus notorum hominum. Pt. C.		1
	Index translationum. Vol. 24.		1
	International bibliography of the social science. Anthropology. Vol. 19.		1
	International directory philosophy and philosophers. 1974-75.		1
	The International who's who. 1975-76.		1
	Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur aus allen Gebieten des Wissens.		
Vol. 10.	Pt. IC. Index autorum. L-Z.		1
	Pt. II. Index autorum. A-Z.		2
	Pt. IIB. Index rerum. A-Z.		4
Vol. 11.	Pt. IB. Index rerum. A-Z.		4
	Pt. IC. Index autorum. A-Z.		2
	Kittel, Gerhard, ed. Theologisches Wörterbuch zum Neuen Testament. Bd. 1-9.		9
	Meyers enzyklopädisches Lexikon. Bd. 13-15.		3
	Meyers neues Lexikon. Bd. 11-12.		2
	The National union catalog; a cumulative author list representing Library of Congress printed cards and titles reported by other American libraries, 1968-1972. Vol. 109-119.		11
	Petit de Julleville, Louis. Histoire de la langue et de la littérature française. Vol. 3, 5-6.		3
	Robert, Paul. Dictionnaire universel des noms propres. Tom. 1-4.		4
	Social science citation index. 1975.		4
	Subject guide to books in print. 1974. Vol. 1-2.		2
	Union catalogue Asian publications. 1971.		1
	Who's who; an annual biographical dictionary. 1975.		1
	Wiener, Philip P., ed. Dictionary of the history of ideas; studies of selected pivotal ideas. Vol. 1-4.		4
	Willing's press guide. 101. ed. 1975.		1
	World of learning. 1974-75. Vol. 1-2		2
	仏書解説大辞典 第12巻		1
	人事興信録 第28版 上・下巻		2
	人類の美術 第4巻		1
	会社総覧 未上場会社版		1
	明治前期書目集成 補巻之二・三・四(上・下)巻		4
	日本国語大辞典 第15・16・17・18・19・20巻		6
	日本歴史辞典 全12巻		12
	日本統計索引		1
	精神医学事典		1
	雑誌記事索引(人文・社会編)累積索引版 1970-74 シリーズX文学・語学編, シリーズV社会編		2

記念資料室だより

本室の有する資料は、非常に多岐にわたるが、なかでも貴重な史料を含むものとして関係者に知られているものは、旧制第二高等学校関係の資料である。

この10月20日(水)～25日(月)、仙台駅前丸光デパートにおいて「第二高等学校史料展—90周年記念—」(二高尚志同窓会主催)が開催されるが、本室からも多くの資料を出陳する予定になっている。そのなかには、「玉虫先生像」(安井曾太郎画)等の美術品を筆頭に、二高蜂章旗あるいは土井晚翠筆の篇額等があり、二高関係者のみならず一般の興をもさかすことと思われる。

なお、時を同じくして仙台市博物館で「魯迅展」(10月19日～11月7日、日中文化交流会・日本経済新聞社主催)が開催されるが、やはり本室に有する仙台医学専門学校関係資料の内から、周樹人(魯迅の本名)の名の見える学年成績表を出陳する予定になっており、本室としてはひとしお記念資料の重みを感じている昨今である。

お知らせ

開館時間、年末年始の休館について。

時間外開館、年末年始の休館は次のとおりです。

時間外開館

昭和51年12月17日(金)まで。

昭和52年1月10日(月)～2月24日(木)まで。

開館時間

平日 18時30分まで。

土曜 15時まで。

年末年始の休館

昭和51年12月27日(月)～52年1月4日(火)まで。

なお、上記以外の日は平常開館です。

附属図書館初任者研修

附属図書館において、以前は新たに採用になった者について研修が実施されていたが、最近是新規採用者に研修が実施されていないため、去る9月1日(水)、2日(木)、7日(火)の3日間附属図書館会議室において午後2時から5時まで、昭和48年以降に採用された定員内、定員外職員20名を対象として実施された。今回の研修では、特に各課の業務内容を認識させ、業務遂行上必要な知識を得させるため各課長よりそれぞれ課の全般的な内容の説明のあと、各掛長から担当掛の業務内容を詳細にわたり説明をされた。

また、附属図書館において工学部の下記2名の方が業務研修を受けている。

- 1) 工学部図書掛石川祐子氏が洋書目録記述法について9月27日から一週間、洋書目録掛長のもとにおいて研修。
- 2) 工学部建築学科図書室、皆川邦子氏が大学図書館職員として必要な全般的業務について9月20日から12月24日までの3ヶ月間に亘る長期研修を現在受けている。

図書館見学と貴重図書展

日本私立大学図書館協会東北地区部会ならびに研究部会が10月8日・9日の両日にわたって東北学院大学において開かれたが、部会出席関係者約60名ほどが9日(土)に本館を見学、あわせて展示中の貴重図書展を観覧した。

人事異動

(10月1日付)

(本館) 会計掛 経理主任 金 須 秀 吉
教養部管理掛長に昇任

経理部管財課管財第一掛管財主任 白 鳥 司 郎
(本館) 総務課会計掛経理主任に配置換

(医分) 整理掛 文部事務官 武 田 光 佳
山形大学附属図書館参考調査係長に昇任

庶務部人事課 文部事務官 松 元 義 正
(医分) 整理掛に配置換。